

# 地域にひろがる 高校生の社会体験活動



## 教科「奉仕」における奉仕体験活動とは

### 環境保全

清掃活動がほとんどであった各学校の取組から、公園の遊具の点検活動、里山や田園の保全活動、環境調査を行った上での河川浄化活動、小中学生と共に取り組む花いっぱい運動など、地域のニーズを踏まえた多彩な活動が生まれています。



### 福祉等の増進

高齢者・障害者福祉施設と連携して、高齢者や障害者の食事の世話やレクリエーションを通じて交流を図る活動から、例えば一人暮らしの高齢者の買い物に付き添うなど、高齢者自身のニーズを踏まえた活動へと広がりを見せています。



### 子供の健全育成

小学生の下校を見守る活動から始まった子供たちとの交流は、現在では小学生や児童館の放課後学習や小学生の夏季プール開放事業の補助、サマーキャンプの運営参加や幼児への絵本の読み聞かせまで、多岐にわたっています。

「奉仕活動」とは、個人の自由意志に着目する「ボランティア活動」の範囲を超えて、社会の求めに応じて行う活動であり、その奉仕活動を教育課程に位置付け、生徒自ら社会の一員であることを実感し、社会に役立つ喜びを体験的に学ぶ活動を「奉仕体験活動」とする。  
(「奉仕」カリキュラム開発委員会報告書 平成18年7月)

### まちづくりの推進

地域と密接にかかわり、近隣の施設を訪問し行事に参加して関係を深める学校が増えています。生徒は、参加だけでなく、町内会や商店街の方々と共にまちづくりのイベント企画を立てたり、イベントの主役として活躍したりしています。

### 社会教育の推進

生涯学習の観点から、高校生が社会教育の担い手になることは重要です。活動は図書館や博物館の資料整理から、高齢者向けのパソコン教室の指導まで様々です。

### 地域安全

地域の防犯や安全を守るための活動の担い手として、地域防犯マップのポスター作成や夜間の巡回活動など、様々な形で地域の求めに応じた活動をおこなっています。

### 災害救援

災害が起こった場合、学校が地域住民の避難所になることが想定されるため、高校生の力が必要になります。この活動では、防災訓練に参加する側から、あらかじめ消防署で訓練を受けて防災訓練を運営する側へと進展してきています。



### 文化・芸術・スポーツの振興

部活動ごとに小・中学校と連携して技術指導をしたり、吹奏楽部や和太鼓部、ダンス部が地域イベントに出演したりするだけでなく、地域の伝統行事を守る活動や、美術館・博物館で事前指導を受けた後、展覧会でガイドを務める活動など、都立高校生が地域の文化を積極的に広める役割も担っています。

今、教育現場では、キャリア教育や部活動の指導など、様々な場面で地域と学校との連携が進んでいます。小中学校では、図書館ボランティアや安全を守る活動、放課後の活動に地域の方が参加し、子供たちの豊かな体験を支えています。また、職場体験では地域の商店街や企業が協力し、貴重な体験の機会をつくっています。学校教育を支援する活動を通じて、地域全体で子供たちを育てる取組が進んでいます。

そして都立高校では、平成19年度から教科「奉仕」が導入されました。これまでの3年間、都立高校では地域や高校の特性を生かして、様々な体験活動を実施してきました。

今回の「みんなの生涯学習」では、地域と連携して実施されている教科「奉仕」を中心とした高校生の体験活動について特集します。

## 教科「奉仕」をとおして高校生に感じてほしいこと

これまで3年間の取組を振り返り、今後の社会体験活動をより豊かに進めていくために必要なことについて、多くの都立高校のサポートをしていただいている日本福祉大学講師の村上徹也さんにメッセージをいただきました。村上さんは、アメリカでサービスラーニングについての研究を行い、帰国後はそのノウハウを普及する活動をされ、平成18年度には教科「奉仕」カリキュラム開発委員を務めていただきました。

### ■ 学校の事情に応じて様々な教科「奉仕」の取組

社会貢献活動と事前・事後学習を組み合わせた教科「奉仕」がすべての都立高校に導入されて3年が経ちました。その間、各都立高校では試行錯誤を重ねられ、生徒たちの興味や関心に即した多彩なグループ活動を行う学校もあれば、地域行事への参加や清掃活動などを学年単位で行う学校もあるなど、学校の事情に応じた取組が進められてきました。中には、国際協力や環境保護などの団体とタイアップした個性豊かな取組を行っている学校もあります。

### ■ 事前・事後学習と体験活動の一体的取組の必要性

このねらいを達成するためには、例えば、地域の美化活動をしなが「ありがとう、頑張ってるね」と地域の方に声をかけられ社会に役立つ喜びを感じたり、かっこよく楽しみながらゴミをひろっている大学生ボランティアの姿から、嫌々活動していた自分を反省して規範意識を高めたりというように、人との出会いを通じた学びの仕組みが体験活動には必要です。

さらには、例えば、障害のある方との出会いをとおして生徒たちが人権や共生の大切さを感じるというような気づきを得るには、事前・事後学習も大切です。事前学習の中で福祉の現場で働く方や当事者の話を聞いたり、体験活動で出会った方々を学校に招いて事後学習でのまとめを発表してコメントをいただくなど、事前の動機づけや準備、事後の振り返りやまとめが重要であり、それらが体験活動と一体的に取り組まれる必要があります。

### ■ 社会的スキルを育むという教科「奉仕」のねらい

生徒たちは、そうした社会貢献活動をとおして、家庭と学校が中心となっている普通の生活では出会うことが少ない自分より年齢の低い子供、親や先生以外の大人たちと出会います。活動だけでなく、学校での事前・事後学習でも、ボランティアや専門家、地域の方々からお話を聞く機会もあり、生徒たちは社会に貢献する生き方の魅力や大切さを学ぶ機会を得ています。

近頃は、コミュニケーション力、問題解決力、規範意識など社会的スキルが育っていないために、職場でうまくいかずに転職を繰り返したり社会不適應を生じたりする若者が目立つようになってきました。これらは一部の問題ではなく、青少年期を問題なく過ごしてきた多くの若者にも生じ得る社会現象になっています。社会的スキルは、家庭や学校の中だけで過ごしては育ちに不十分で、社会とのかかわりのなかで学ぶ必要があります。そこで、都立高校に通うすべての生徒たちに「社会的スキルを身につける機会を提供する」ことをねらいとして、教科「奉仕」が導入されました。



### ■ 地域の協力があってこそ学べる社会貢献意識

このように、人との出会いを通して社会的スキルを高め、社会貢献意識を育む教科「奉仕」には、事前・事後学習と体験活動に学校外の方々の参加と協力が不可欠といえます。地域をより良くしようと努力を重ねている方々がロールモデルとなり、多くの高校生たちに社会に貢献する生き方の魅力と大切さを感じてもらいたいと思います。



※ 「奉仕」という名称ではなく、「社会体験活動」「コミュニティサービスラーニング」「おもいやり」「ふれあい」などの科目名で実施している高校もあります。